

日本工学院八王子専門学校		開講年度	2019年度（平成31年度）	科目名	キャリアプランニング 2
科目基礎情報					
開設学科	ミュージックアーティスト科 コンサート・イベント科 音響芸術科	コース名		開設期	後期
対象年次	1年次	科目区分	必修	時間数	30時間
単位数	2単位	授業形態	講義		
教科書/教材	スライド資料、配布プリント、「2019年度 ビジネス能力検定ジョブパス公式テキスト」				
担当教員情報					
担当教員	田中 亮	実務経験の有無・職種	有・マネジメント職、採用職、プランナー		
学習目的					
大きく分けて2つの点を学ぶ。ひとつは、PCのOfficeソフト（Word、Excel、PowerPoint）の基本的な操作と活用方法、もうひとつは毎年12月に一斉受験予定の「ビジネス能力検定ジョブパス3級」（以下「B検」）合格に向けての学習・試験対策である。双方とも、翌年の就職活動、あるいは就職後の実務において欠かすことのできない内容であるため、学科の専門実技と同等の重要性があることを認識してほしい。					
到達目標					
ライブ制作をはじめとした実務に必要なOfficeソフトについて、PC操作実習を通じて基本的な操作と主にライブ制作現場を意識した活用方法を学習し、1年次後半～2年次のライブ制作実習の際にはスムーズなソフト活用（ドキュメント作成、タイムスケジュール等の表作成、表計算、プレゼンテーションなど）がされることを目指す。また、B検3級合格は就職活動時の大きな武器になるため、本年度12月の一斉受験での合格を実現すべく、B検3級試験対策（傾向の分析、過去問題演習）を行い、公式テキストに沿った内容の理解を目指す。					
教育方法等					
授業概要	座学とPC操作実習がメインとなる。PC操作実習においては、最初にソフト操作の概要を示し、実務で必要とされるシーンを想定してビジネス文書作成、歌詞カードなどのドキュメント作成、表作成、表計算、効果的なプレゼンテーションとスライド作成を行う。また、B検対策においては、テキストの重要な箇所（試験に出やすい項目）を抽出し、現実のビジネスシーンを想定してわかりやすく解説して、学生生活と社会人生活の差異などを認識させながら解説を行う。理解度確認ワークシートも活用する。				
注意点	専門学校は、社会人としての行動・あり方を学ぶ「職業訓練」の場であるという考え方から、他の授業・実習と同様、出席状況については厳しく評価する。また、授業中の態度（居眠り、私語など）にも厳しく対応する。職業訓練とは、2年後の自分自身の生きる糧・力を得るものであり、自分自身のこととして主体的な考え方をもち、積極的な姿勢で授業に参加してほしい。なお、授業時数の4分の3以上出席しない者は定期試験を受験することができない。				
評価方法	種別	割合	備 考		
	試験・課題	80%	試験と課題を総合的に評価する		
	小テスト	10%	授業内容の理解度を確認するために実施する		
	レポート	0%			
	成果発表表 （口頭・実技）	0%			
	平常点	10%	積極的な授業参加度、授業態度によって評価する		
授業計画（1回～15回）					
回	授業内容	各回の到達目標			
1回	B検対策(5)	B検テキスト 第2編 第3章「電話対応」を理解する			
2回	B検対策(5)	B検テキスト 第2編 第4章「統計・データの読み方・まとめ方」を理解する			
3回	B検対策(5)	B検テキスト 第2編 第5章「情報収集とメディアの活用」を理解する			
4回	B検対策(5)	B検テキスト 第2編 第6章「社会を取り巻く環境と経済の基本」を理解する			
5回	B検過去問題対策(1)	B検過去問題演習・解答解説(1回目)			
6回	B検過去問題対策(2)	B検過去問題演習・解答解説(2回目)			
7回	B検過去問題対策(3)	B検過去問題演習・解答解説(3回目)			
8回	プレゼンテーション実習(1)	プレゼンテーションとライトニングトークの概要を理解する			
9回	プレゼンテーション実習(2)	PowerPointの基本操作を理解する			
10回	プレゼンテーション実習(3)	ライトニングトーク実習準備・スライド作成(1回目)			
11回	プレゼンテーション実習(4)	ライトニングトーク実習準備・スライド作成(2回目)			
12回	プレゼンテーション実習(5)	ライトニングトーク実習準備・スライド作成(3回目)、ライトニングトーク発表(1回目)			
13回	プレゼンテーション実習(6)	ライトニングトーク発表(2回目)			
14回	プレゼンテーション実習(7)	ライトニングトーク発表(3回目)			
15回	就職活動を前に	DVD教材を用い、「内定の辞退」「企業の採用活動」という視点から就職活動のあり方を理解する			